

【開館55周年記念特別展】上村松園・松篁 —美人画と花鳥画の世界—

1966(昭和41)年に日本初の日本画専門の美術館として開館した山種美術館は、2021(令和3)年に開館55周年を迎えることを記念して、一年を通じ特別展を開催してきました。開館55周年記念特別展の最後を飾る本展では、当館と縁が深い日本画家・上村松園(1875-1949)と、その長男で生誕120年を迎える上村松篁(1902-2001)の作品をご紹介します。

美人画の名手として知られる女性画家・上村松園は、生涯にわたり気品ある女性像を描き続けました。京都で生まれ育った松園は、京都府画学校*に通い、鈴木松年に学んだのち、幸野椋嶺、竹内栖鳳に師事します。早くから頭角を現し、江戸や明治の風俗、和漢の古典に取材した女性像を描き、文展や帝展など数々の展覧会に出品を重ね、活躍しました。1948年には女性として初めて文化勲章を受章しています。当館創立者で初代館長の山崎種二は、松園と親しく交流しながら作品を蒐集しました。代表作である《砧》《牡丹雪》を含む、計18点の松園作品を当館は所蔵しており、屈指の松園コレクションとして知られます。

松園の長男である上村松篁は、花鳥画を得意としました。松篁も京都で生まれ育ち、京都市立絵画専門学校*に入学するとともに西山翠嶂に師事します。官展を中心に出品を重ねたのち、1948年には創造美術(現・創画会)を結成して活躍しました。1953年より京都市立美術大学*教授、1981年に日本芸術院会員となり、1984年には文化勲章を受章しています。写実を基礎とする、洗練された格調高い花鳥の姿を描き続け、京都画壇を牽引しました。

本展では、当館の所蔵する松園の美人画18点、松篁の花鳥画9点が、初めて一堂に会します。また、松園・松篁の母子2代の日本画とあわせて、松園と同時代に活躍した鍋木清方や伊東深水の美人画、松篁の長男である上村淳之のほか、同時代に活躍した画家たちによる優品の数々をご紹介します。美人画と花鳥画が織りなす、華やかで優美な絵画の世界をご堪能いただける特別展です。

★ 現・京都市立芸術大学 ※ 文中の作品はすべて山種美術館蔵

■ 展覧会名：【開館55周年記念特別展】上村松園・松篁 —美人画と花鳥画の世界—

Special Exhibition Commemorating the 55th Anniversary of the Yamatane Museum of Art:

Uemura Shōen and Shōko —The World of Bijinga and Kachōga, Paintings of Beautiful Women and Birds and Flowers

■ 会 期：2022年2月5日(土)～4月17日(日)

■ 会 場：山種美術館 (〒150-0012東京都渋谷区広尾3-12-36) ■ 主 催：山種美術館、日本経済新聞社

■ 開館時間：平日：午前10時～午後4時 土・日・祝日：午前10時～午後5時 (入館はいつでも閉館時間の30分前まで)
※今後の状況により会期・開館時間等は変更する場合がございます。

■ 休 館 日：月曜日 [3/21(月)は開館、3/22(火)は休館]

■ 入 館 料：一般1300円、中学生以下無料(付添者の同伴が必要です)

※障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)一般1100円

春の学割 大学生・高校生 500円 ※本展に限り、特別に入館料が通常1000円のところ半額になります。

※きもの特典：きものでご来館のお客様は、入館料から200円引きとなります。※複数の割引・特典の併用はできません。入館日時のオンライン予約も可能です(詳細は当館Webサイトをご覧ください)。

■ 主な出品作品：約60点 ※すべて山種美術館蔵。※出品内容には変更が入る場合があります。

上村松園：《蛩》、《新蛩》、《タベ》、《春のよそをひ》、《砧》、《春芳》、《詠哥》、《娘》、《牡丹雪》、《杜鵑を聴く》、《庭の雪》など計18点
上村松篁：《日本の花・日本の鳥》、《白孔雀》、《千鳥》、《閑鷺》、《花菖蒲》、《竹雪》、《芥子》、《鶏》、《春鳩》計9点
鍋木清方《伽羅》、伊東深水《婦人像》、上村淳之《白い雁》ほか

本展のみどころ

1. 山種コレクションの上村松園・松篁作品を一挙公開！

松園の代表作《砧》《牡丹雪》をはじめとする全18点、ならびに松篁の逸品《白孔雀》を含む全9点が一堂に会す展示は、今回が初めてです。ぜひこの機会にご堪能ください。

2. 松園、松篁、淳之の上村家三代の作品を東京で観られる特別展！

京都で活躍した松園、松篁、そして今も画壇を牽引する淳之の作品を一度に東京で観られる貴重な機会です。

3. 珠玉の美人画、花鳥画の優品をご紹介します！

「西の松園、東の清方」と称された鍋木清方やその弟子・伊東深水、松篁と同時代に活躍した橋本明治らによる優品の数々もあわせてご紹介します。

■ 交通案内：JR・東京メトロ日比谷線 恵比寿駅より徒歩約10分

恵比寿駅西口前より都バス(学06番 日赤医療センター前行)広尾高校前下車、徒歩1分

渋谷駅東口ターミナル54番乗り場より都バス(学03番 日赤医療センター前行)東4丁目下車、徒歩2分

■ 問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル 電話受付時間：9:00～20:00)

■ 公式 HP：<https://www.yamatane-museum.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/yamatanemuseum/>

Twitter <https://twitter.com/yamatanemuseum/>

Instagram https://www.instagram.com/yamatane_museum/

note <https://yamatane-museum.note.jp/>

報道関係の方からの
本件に関する
お問合せ先

展覧会広報事務局(共同ピーアール内) 担当/三井・瀬島

〒104-0045 中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

TEL：03-6264-2382 FAX：0120-653-545 E-mail：yamatane-pr@kyodo-pr.co.jp



←
上村松園
《蛩》
1913(大正 2)年
絹本・彩色
山種美術館



→
上村松園
《新蛩》
1929(昭和 4)年
絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《春のよそをひ》
1936(昭和 11)年頃 絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《砧》→
1938(昭和 13)年 絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《春芳》
1940(昭和 15)年 絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《娘》
1942(昭和 17)年 絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《牡丹雪》
1944(昭和 19)年 絹本・彩色
山種美術館



上村松園 《杜鵑を聴く》
1948(昭和 23)年 絹本・彩色
山種美術館



© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291
★ 上村松篁 《日本の花・日本の鳥》
1970(昭和 45)年 紙本・彩色 山種美術館



© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291
★ 上村松篁 《白孔雀》
1973(昭和 48)年 紙本・彩色 山種美術館



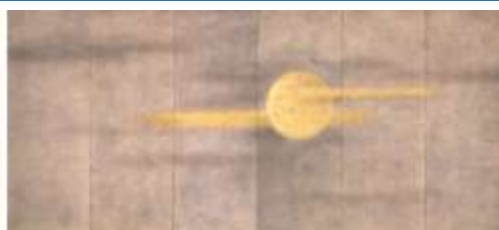
© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291
★ 上村松篁 《竹雪》
1977(昭和 52)年 紙本・彩色 山種美術館



© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291
★ 上村松篁 《閑鷺》
1977(昭和 52)年 紙本・彩色 山種美術館



© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291
★ 上村松篁 《春鳩》
1980(昭和 55)年 紙本・彩色 山種美術館



★ 上村淳之 《白い雁》
1974(昭和 49)年
紙本・彩色
山種美術館
© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291

※ 出品作品および展示期間は都合により変更される場合があります。

※ ★印の作品は著作権保護期間が切れておりませんが、このたびの本展覧会紹介、周知を目的の掲載については当館が著作権者から画像使用許可をまとめて取得しておりますので、1媒体につき2点まで掲載いただけます。

なお、掲載の際は画像の下に著作権クレジット「© Atsushi Uemura 2021 /JAA2100291」を表記ください。